

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	横浜情報ITクリエイター専門学校
設置者名	学校法人大原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業 専門課程	情報処理学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
	クリエイター学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
	高度情報処理学科	夜・通信	10 単位	10 単位	
	高度クリエイター学科	夜・通信	10 単位	10 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	横浜情報ITクリエイター専門学校
設置者名	学校法人大原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長	2025.5.29～ 4年以内に終 了する会計 年度のうち 最終のもの に関する定 時評議員会 の終結の時 まで	法人運営における 法務的な検証、管理
非常勤	Webデザイン・システム 開発・印刷関連企業 代表取締役	2025.5.29～ 4年以内に終 了する会計 年度のうち 最終のもの に関する定 時評議員会 の終結の時 まで	学生募集、教材開発 への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	横浜情報ITクリエイター専門学校
設置者名	学校法人大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1) 授業計画(シラバス)の作成について 授業計画(シラバス)は毎年度、授業科目の設定・講義内容について検討し、各学科の担当教員が作成している。検討にあたっては、専門分野に関する企業・団体等との連携により設置している教育課程編成委員会(年2回)にて提言された内容を各授業科目のカリキュラムに反映させる。授業計画(シラバス)の作成、記載項目は学校全体のガイドラインにより行っている。</p> <p>2) 授業計画(シラバス)は以下の項目から成る。 ・授業科目名・年次・学期・科目区分・授業方法・単位数・授業概要・達成目標 ・教科書・授業計画・成績評価方法・実務家教員である場合はその旨</p> <p>3) 公表時期について 年間計画に基づき、教育課程編成委員会での意見収集を反映させたうえで、前年度中に作成を行い、新年度開始前までにホームページを通じて公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) (試験等)</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めるときは、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(学業成績)</p> <p>1) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表す。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>2) 授業科目の成績は、前項の5種で表すとともに、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。</p>	

<p>(単位の授与)</p> <p>授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。</p>									
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>									
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標に基づく相対評価により順位付けを行う場合には、GPA (Grade-Point-Average) を用いる。</p> <p>学業成績のGP (Grade-Point) への換算は、秀…4ポイント、優…3ポイント、良…2ポイント、可…1ポイント、不可…0ポイントとする。</p> <p>また、GPAは下記算式により算出する。</p> $\text{GPA} = \frac{\text{(履修科目のGP} \times \text{履修単位数) の合計}}{\text{総履修単位数}}$									
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/								
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>									
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、下記に定める単位以上の修得をし、卒業審査に合格した者について、最終学年の終わりに校長が行う。</p> <p>卒業に必要な単位数</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 情報処理学科</td> <td>62単位</td> </tr> <tr> <td>(2) クリエイター学科</td> <td>62単位</td> </tr> <tr> <td>(3) 高度情報処理学科</td> <td>93単位</td> </tr> <tr> <td>(4) 高度クリエイター学科</td> <td>93単位</td> </tr> </table>		(1) 情報処理学科	62単位	(2) クリエイター学科	62単位	(3) 高度情報処理学科	93単位	(4) 高度クリエイター学科	93単位
(1) 情報処理学科	62単位								
(2) クリエイター学科	62単位								
(3) 高度情報処理学科	93単位								
(4) 高度クリエイター学科	93単位								
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/								

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	横浜情報ITクリエイター専門学校
設置者名	学校法人大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
財産目録	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
事業報告書	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/business_report.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/audit_report.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報処理学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62単位	4 単位	51 単位	58 単位	0 単位	0 単位
			113単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		90人	11人	2人	2人	4人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
<p>1) 授業計画（シラバス）の作成について</p> <p>授業計画（シラバス）は毎年度、授業科目の設定・講義内容について検討し、学科の担当教員が作成している。検討にあたっては、専門分野に関する企業・団体等との連携により設置している教育課程編成委員会（年2回）にて提言された内容を各授業科目のカリキュラムに反映させる。授業計画（シラバス）の作成、記載項目は学校全体のガイドラインにより行っている。</p> <p>2) 授業計画（シラバス）は以下の項目から成る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名・年次・学期・科目区分・授業方法・単位数・授業概要・達成目標 ・教科書・授業計画・成績評価方法・実務家教員である場合はその旨

<p>3) 公表時期について</p> <p>年間計画に基づき、教育課程編成委員会での意見収集を反映させたいうえで、前年度中に作成を行い、新年度開始前までにホームページを通じて公表する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>(試験等)</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めるときは、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(学業成績)</p> <p>1) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表す。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>2) 授業科目の成績は、前項の5種で表すとともに、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。</p> <p>(単位の授与)</p> <p>授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>(進級)</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>(卒業)</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、下記に定める単位以上の修得をし、卒業審査に合格した者について、最終学年の終わりに校長が行う。</p> <p>卒業に必要な単位数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理学科 62単位
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>個別相談・指導等に対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話、Eメール等で連絡、個人面談、保護者等との連携を実施し、学習のバックアップをしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)
(主な就職、業界等) —			
(就職指導内容) 学科責任者及びクラス担任が中心となり、「キャリアデザイン」という科目を通じて、就職活動の準備を教育プログラムとして計画的に実施している。具体的には履歴書やエントリーシートの作成方法、適性検査対策、模擬面接等を実施している。また、大原学園就職部を中心に求人票の獲得に努め、企業紹介を行うとともに、学内業界研究セミナーを開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、AWS認定クラウドプラクティショナー			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	5 人	10.9%
(中途退学の主な理由) 病気療養、進路変更、学習意欲喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を日々のクラス担任ミーティングで共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、必要に応じて保護者と情報を共有しながら連携を取ることで退学防止に努めている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	クリエイター学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位	31 単位	4 単位	44 単位	0 単位	0 単位
			79 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		12 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>1) 授業計画（シラバス）の作成について</p> <p>授業計画（シラバス）は毎年度、授業科目の設定・講義内容について検討し、学科の担当教員が作成している。検討にあたっては、専門分野に関する企業・団体等との連携により設置している教育課程編成委員会（年2回）にて提言された内容を各授業科目のカリキュラムに反映させる。授業計画（シラバス）の作成、記載項目は学校全体のガイドラインにより行っている。なお、認可養成施設である介護福祉学科については、養成施設指定カリキュラムとして示されている内容を網羅して、教育課程を編成している。</p> <p>2) 授業計画（シラバス）は以下の項目から成る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名・年次・学期・科目区分・授業方法・単位数・授業概要・達成目標 ・教科書・授業計画・成績評価方法・実務家教員である場合はその旨 <p>3) 公表時期について</p> <p>年間計画に基づき、教育課程編成委員会での意見収集を反映させうえで、前年度中に作成を行い、新年度開始前までにホームページを通じて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>（試験等）</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内で行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めるときは、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>（学業成績）</p> <p>1) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表す。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>2) 授業科目の成績は、前項の5種で表すとともに、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。</p> <p>（単位の授与）</p> <p>授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>（進級）</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>（卒業）</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、下記に定める単位以上の修得をし、卒業審査に合格した者について、最終学年の終わりに校長が行う。</p> <p>卒業に必要な単位数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリエイター科 62単位

学修支援等
(概要) 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話、Eメール等で連絡、個人面談、保護者等との連携を実施し、学習のバックアップをしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)
(主な就職、業界等) —			
(就職指導内容) 学科責任者及びクラス担任が中心となり、「キャリアデザイン」という科目を通じて、就職活動の準備を教育プログラムとして計画的に実施している。具体的には履歴書やエントリーシートの作成方法、適性検査対策、模擬面接等を実施している。また、大原学園就職部を中心に求人票の獲得に努め、企業紹介を行うとともに、学内業界研究 セミナーを開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) CG-ARTS マルチメディア検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	1 人	25.0 %
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を日々のクラス担任ミーティングで共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、必要に応じて保護者と情報を共有しながら連携を取ることで退学防止に努めている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	高度情報処理工学	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	93単位	4 単位	59 単位	63 単位	0 単位	0 単位
			126単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		37人	6人	1人	3人	4人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>(概要)</p> <p>1) 授業計画（シラバス）の作成について 授業計画（シラバス）は毎年度、授業科目の設定・講義内容について検討し、学科の担当教員が作成している。検討にあたっては、専門分野に関する企業・団体等との連携により設置している教育課程編成委員会（年2回）にて提言された内容を各授業科目のカリキュラムに反映させる。授業計画（シラバス）の作成、記載項目は学校全体のガイドラインにより行っている。</p> <p>2) 授業計画（シラバス）は以下の項目から成る。 ・授業科目名・年次・学期・科目区分・授業方法・単位数・授業概要・達成目標 ・教科書・授業計画・成績評価方法・実務家教員である場合はその旨</p> <p>3) 公表時期について 年間計画に基づき、教育課程編成委員会での意見収集を反映させたうえで、前年度中に作成を行い、新年度開始前までにホームページを通じて公表する。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>(概要)</p> <p>(試験等) 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めるときは、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(学業成績) 1)) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表す。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。 2) 授業科目の成績は、前項の5種で表すとともに、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。</p> <p>(単位の授与) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。</p>	

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>(進級) 進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>(卒業) 卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、下記に定める単位以上の修得をし、卒業審査に合格した者について、最終学年の終わりに校長が行う。</p> <p>卒業に必要な単位数 ・高度情報処理学科 93単位</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 個別相談・指導等に対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話、Eメール等で連絡、個人面談、保護者等との連携を実施し、学習のバックアップをしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)
(主な就職、業界等) —			
(就職指導内容) 学科責任者及びクラス担任が中心となり、「キャリアデザイン」という科目を通じて、就職活動の準備を教育プログラムとして計画的に実施している。具体的には履歴書やエントリーシートの作成方法、適性検査対策、模擬面接等を実施している。また、大原学園就職部を中心に求人票の獲得に努め、企業紹介を行うとともに、学内業界研究セミナーを開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、AWS 認定クラウドプラクティショナー			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	1人	6.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子(出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等)を日々のクラス担任ミーティングで共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、必要に応じて保護者と情報を共有しながら連携を取ることで退学防止に努めている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	高度クリエイター学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	93単位	41 単位	4 単位	83 単位	0 単位	0 単位
			128単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		31人	1人	1人	5人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要)
1) 授業計画 (シラバス) の作成について 授業計画 (シラバス) は毎年度、授業科目の設定・講義内容について検討し、学科の担当教員が作成している。検討にあたっては、専門分野に関する企業・団体等との連携により設置している教育課程編成委員会 (年2回) にて提言された内容を各授業科目のカリキュラムに反映させる。授業計画 (シラバス) の作成、記載項目は学校全体のガイドラインにより行っている。
2) 授業計画 (シラバス) は以下の項目から成る。 ・授業科目名・年次・学期・科目区分・授業方法・単位数・授業概要・達成目標 ・教科書・授業計画・成績評価方法・実務家教員である場合はその旨
3) 公表時期について 年間計画に基づき、教育課程編成委員会での意見収集を反映させたくうえで、前年度中に作成を行い、新年度開始前までにホームページを通じて公表する。

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) (試験等)</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めるときは、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(学業成績)</p> <p>1) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表す。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>2) 授業科目の成績は、前項の5種で表すとともに、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。</p> <p>(単位の授与)</p> <p>授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) (進級)</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>(卒業)</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、下記に定める単位以上の修得をし、卒業審査に合格した者について、最終学年の終わりに校長が行う。</p> <p>卒業に必要な単位数 ・高度クリエイター学科 93単位</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>個別相談・指導等に対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話、Eメール等で連絡、個人面談、保護者等との連携を実施し、学習のバックアップをしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)	— 人 (%)
(主な就職、業界等)			
—			
(就職指導内容)			
<p>学科責任者及びクラス担任が中心となり、「キャリアデザイン」という科目を通じて、就職活動の準備を教育プログラムとして計画的に実施している。具体的には履歴書やエントリーシートの作成方法、適性検査対策、模擬面接等を実施している。また、大原学園就職部を中心に求人票の獲得に努め、企業紹介を行うとともに、学内業界研究セミナーを開催している。</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) CG-ARTS マルチメディア検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	0人	0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子(出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等)を日々のクラス担任ミーティングで共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、必要に応じて保護者と情報を共有しながら連携を取ることで退学防止に努めている。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料(年間)	その他	備考(任意記載事項)
情報処理学科	200,000円	680,000円	560,000円	「その他」の内訳 教材費 80,000円 維持費 200,000円 実習費 280,000円
クリエイター学科	200,000円	680,000円	620,000円	「その他」の内訳 教材費 80,000円 維持費 220,000円 実習費 320,000円
高度情報処理学科	200,000円	680,000円	560,000円	「その他」の内訳 教材費 80,000円 維持費 200,000円 実習費 280,000円
高度クリエイター学科	200,000円	680,000円	620,000円	「その他」の内訳 教材費 80,000円 維持費 220,000円 実習費 320,000円
修学支援(任意記載事項)				
学校独自の学費支援制度				
① 試験による特待生制度: がんばる人を支援するために「試験による特待生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特待生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。				
② 資格・クラブ活動による特待生制度: がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特待生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 自己評価結果については令和8年度末までにHPにて公表する。 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。		
学校関係者(参画委員)		
(1) 専攻分野に関する企業等 (2) 卒業生、高校関係者、地域住民等		
主な評価項目		
(1) 教育理念・目標 (6) 教育環境 (2) 学校運営 (7) 学生の受け入れ募集 (3) 教育活動 (8) 財務 (4) 学修成果 (9) 法令等の順守 (5) 学生支援 (10) 社会貢献・地域貢献		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
横浜市社会福祉協議会 高齢福祉部会 副部会長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 企業等委員
角田 公認会計士・税理士事務所 所長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 企業等委員
まいばすけっと株式会社 財務・経理部 部長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 企業等委員
有限会社高岡 スポーツジムコスモス 代表取締役社長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 企業等委員
虎ノ門桜法律事務所 代表弁護士	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原法律公務員専門学校横浜校 企業等委員
医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院 医事科主任	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 企業等委員
社会福祉法人和泉福祉会 ナーサリ-横浜ポートサイド 園長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 企業等委員
医療法人積愛会 介護老人保健施設 千の星・よこはま 事務長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 企業等委員
シンボー情報システム株式会社 人材開発部採用担当	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日 (2年)	横浜情報ITクリエイター専門学校 企業等委員

株式会社 C I J 金融ビジネス事業部 副事業部長	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日 (2 年)	横浜情報 IT クリエイター専門学校 企業等委員
大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 卒業生	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日 (2 年)	大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 卒業生
大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 卒業生	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日 (2 年)	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 卒業生
大原法律公務員専門学校横浜校 卒業生	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日 (2 年)	大原法律公務員専門学校横浜校 卒業生
二ッ谷通り商栄会 会長	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日 (2 年)	大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 大原法律公務員専門学校横浜校 横浜情報 IT クリエイター専門学校 地域住民
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校関係者評価結果については令和 8 年度末までに HP にて公表する。 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
(備考)		
第三者評価は未実施		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H114310000615
学校名 (〇〇大学 等)	横浜情報ITクリエイター専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人大原学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		27人 (11) 人	26人 (-) 人	27人 (11) 人
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅱ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅲ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	-	-	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	-	
区分外 (多子世帯)	-	-		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				27人 (11) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—	0人	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	—	—	—
計	—	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。